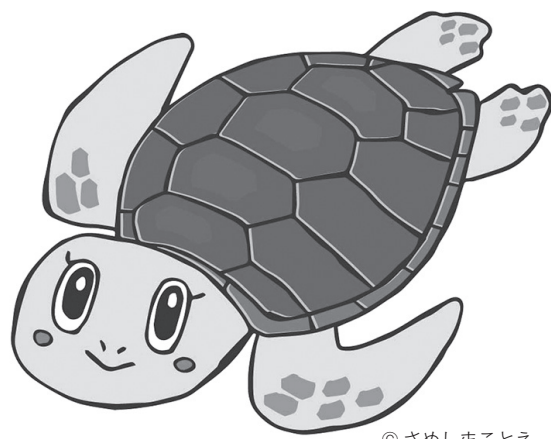


なぜ求めるの？ 県民投票

●西村亜希子（ハチロクニュース編集部員）

川内原発20年延長を問う
「県民投票条例の制定を求める署名運動」とは？



©さめしまことえ

県民投票マスコットキャラクターの「カメさん」です。



んな声がきかれる。

「足りない電力をどうするの」「電気代は上がっているのに」「CO2削減のためにもいたし方ないんじゃない」…。

あるいは、「どうせ変わらない」「議会で否決の可能性？ はじめから負け戦ではないか」「もっと楽で有効な策があるのでは」…。

川内原発20年延長を問う「県民投票条例の制定を求める署名運動」の話。法的効力のない通常の署名運動とは違い、県からの告示が必要で期間が限定される。公約で、川内原発をめぐる県民投票の実施に言及した塩田知事も「ハードルが高い」とは言っていた。しかし、この直接請求には住民が、「自分たちに関わることを自分たちで決める」唯一の可能性がある。

▶川内原発をめぐる県民投票に向けて

流れはこうだ。

- ①投票の実施を県に請求する署名を、2万7千筆（有権者の50分の1）以上集める。
- ②「県民投票条例」が県議会で制定される。
- ③投票を実施。県民の一人一人が20年延長の是非を選ぶ。

ただし、①必要数の署名が集まらなければ、②集まっても県議会で否決されれば、ゲームオーバー。さらに、③に至っても、20年延長賛成が過半数になったら、署名収集者の努力が報われない—選挙運動みたいな一大事業なんである…。「賛成/反対にかかわらず県民投票を求める署名運動」とは、いっても「手弁当側」は反原発であり、ほっておけば知事と議会で決めてしまうのをな

んとか阻止しようと馬力をふり絞る今回の運動なんである。

発足会議の一場面をお伝えしよう（イメージ）。
—運動ベテランのノロさんから「準備（時間）が足りない」旨のダメ出しが。この人がいてこそ。ムコハラさんが言った。「何もやらんことが推進派にとっていちばん都合がいい。それ以上の負けはない。やらんことがリスクや。だからリスクはない」。ソマタニ君が言った。「やるべきです。自分たちの権利を行使しましょう」。マツザキ女史は言った。「この機会に老朽原発問題を明らかにしていきましょう」—。

▶なぜ20年延長をあっさり決められてはならないのか

<安全性>

3.11から12年。収束…？とんでもない。原子力緊急事態宣言は出たまま。福島は被災者約3万人が未だ家へ帰れず。一方、被ばく己むを得ず暮らす住民。放射線管理区域の4倍、年間20ミリシーベルトの許容量ゆえ、児童までもが「清掃」作業に動員される。放射性物質は大気へ海へと連日ダダ漏れ。汚染水も汚染土も増えるばかりで国土と海原に「還元する」しかない。暴走し続ける核を処理する技術などハジメっからない。内部被ばくは生体濃縮で相乗される。関連付けた包括的データは表には出てこないが、死亡率は上がっているし不健康を肌を感じる。子どもが心配だ。成長しない大人より数倍から数十倍も、細胞分裂が

激しく臓器の小さい幼子が犠牲になる。

「業界のトップランナー」川内原発は2015年、全国に先駆けて再稼働した。そして今度は寿命間際の老朽原発を、20年を延長して稼働しようというのだ。長年の中性子照射により脆くなった、交換や修理など不可能な原子炉压力容器を六十数年、奇跡的にもたそうというのだ。設計を知る者には晴天の霹靂だろうが、国からやれと言われたら企業は恐ろしくても進むのだろう。今のカネがまわれればいいのだ。

攻撃や地震の直近のニュースが、すぐ向こうの川内原発を思わせないわけがない。日ごとキナ臭くなっており、鹿児島が戦場になっていくのは必然かもしれない。川内原発近傍には複数の断層帯が分布している。祈るしかない。原子炉が壊れたら、全国はおろか北半球壊滅の大惨事になりうるのだから…。原発は核は、地球の最たる脅威である—。

【南日本新聞一面記事紹介】

- 1, 「川内 運転停止に現実味」(2023.2.26)
九電は、耐震対策のための追加工事コストで行き詰まっている。「テロ対策施設の完成遅れで運転停止に追い込まれた苦い過去」を経て今、「地震動評価を小さく見積り、大規模な費用のかかる工事の規模を小さくしようと考えた可能性がある」。
- 2, 「原発60年超 不支持71%」(2023.3.5)
全国世論調査の結果だ。大多数が不支持の理由に地震や攻撃のリスクを挙げた。鹿児島ではどうだろうか。

なぜ求めるの？ 県民投票

「県民投票条例の制定を求める署名運動」とは？

<必要性と経済性>

最重要の安全性について述べた。あとは、「今すぐ原発ゼロ」がもしかすると極論でなくなってくる「ABC」だ。

A. 電力は足りていること。日本は福島原発事故後の原発運転停止期間、それを証明した。2021年の統計では、原発の発電の割合は全体の5.9%にすぎない（化石燃料が72.9%、再エネが20.3%）。

B. 原発は、稼働しているだけで核のゴミが山積み放射能は漏れ、生物のいのちが大量に損なわれる。廃炉しても分裂しつづける核はアインシュタインの魂でも止められないのだから、半永久的に雇用の心配はない（涙）。

C. 「地球温暖化にやさしいエコな」原発が排出するCO₂は、遠い国でのウラン採掘→原発建設→事故後の処理→使用済み核燃料やプルトニウムの輸送やそれらの永続的管理などを勘定に入れると、膨大なうえ試算のしようがないだろう。はがそう、ゼロカーボンの化けの皮。…あ、おまけがあった。原発は、電力需給の効率の悪さ、すなわちコストの高さでもぶっちぎり。現に、事故処理・再稼働・20年延長にける莫大なコストは、うなぎのぼり中の電気料金でもってしっかり徴収されている。

「高い、めちゃくちゃ高い！ワシら貧乏人にも、いのちのコストも、アホや、高すぎや！」（ムコハラさん風）

▶わたしたちにできること

「真の文明は 山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず 人を殺さざるべし」(田中正造)。

人権・環境保護を住民が企業や為政者に訴えた事例は数知れず。たとえ目標達成に至らずとも、その闘いはわたしたちの心を照らしてくれる。この利己的文明社会において、最優先にいのちを守ろうとする人々が確かにいるのだ。

<原発をめぐる住民投票の事例>

投票実施に至ったのは、1996年の新潟県巻町（東北電力の原発建設）と、2001年の新潟県刈羽村（東京電力の原発へのプルサーマル計画導入）である。いずれも反対が過半数となった。巻町は、30年を超える闘争の末2003年、東北電力はついに計画を断念。プルサーマル計画はそもそも技術・コスト面で非現実的である。

原発設置をめぐる条例が制定されたのは、高知県窪川町／四国電力（1982年）、三重県南島町／中部電力（1993年）、宮崎県串間市／九州電力（1993年）であり、すべて計画断念・白紙撤回となった。投票の実施にこそ至らなかったが、「条例の可決制定自体が何らかの形で事態を動かし、実際に住民投票を実施しなくともよい状況を創り出す力となったことは確かである」（関東弁護士連合会）。

さらに串間市は、その賛否の決着が再浮上し、全国3例目の投票を2011年4月に控えていた。投票は延期され、「3.11震災後、

地域を二分してきた議論は消えた」（朝日新聞2011.5.3）。

最近では、宮城県の女川原発2号機（東北電力）の再稼働をめぐり2019年、「みんな決めて会」が必要数3倍近くの11万筆余りを集めたが、否決された。東海第2原発再稼働（日本原子力発電）の賛否を問う「いばらき原発県民投票の会」は2020年、必要数1.8倍の9万筆近くを集めたが、即日採決で否決。「あっさり葬り去った。論理矛盾のオンパレードだった」（徳田太郎）。——とはいえ、SNS発信、クラウドファンディング、イベント開催など、広く繋がり支援を得た。そして今、全国初の再挑戦中である。24年1月から2か月間署名を集めて直接請求する見通し。茨城県はまた、原発立地／稼働の「同意」を得る地元の範囲を「原発立地自治体のみ」ではなく、異例の「30キロ圏内の6市村の同意が必要」としている。



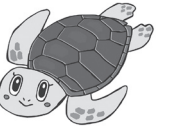
県民投票条例の制定・実施にまで至るケースは少ない。その過程で（あるいはもうすでに）、安全神話と補償金／交付金が一定数を原発誘致に傾け、「村を破」るかもしれない。だが、投票にむけての働きかけのなかで、一つに絞った案件を住民が「熟議」すること自体に価値がある。原発事故を引き起こしたわたしたちは、核という喫緊の最重要問題について知るべきだし、立場を超えて話し合いたい。

「僕らのような高齢の人間が、『どうせ死ぬんだからあとはいいや』というのは一番嫌いです。それで勝手なことをやられたら

子どもたちはたまらないですよ」（黒田征太郎）。

これから数か月間の「熟議民主主義」の実践は、次世代への想いである。

求む！ 署名収集者



署名収集者（受任者）、650人集まりました。あと1800人必要です。鹿児島県の有権者のみなさま、是非ともご協力ください。署名収集期間は6月1日（予定）から60日間（マニュアル作成中）。運動には資金と馬力が必要です。みなさまのお力添えをお願い申し上げます。

署名収集者受付はこちらから→



または事務局 (080) 2353-4414 まで。

HPからも→ <https://sendai20tohyo.com>

ご支援：1口1000円、何口でも

【お振込み先】

ムコハラ ヨシタカ

ゆうちょ銀行

記号 17810 番号 3237871

※他行からは、

店名 788 普通 0323787

西村亜希子（にしむらあきこ）

「川内原発20年延長を問う県民投票」事務局期間限定常駐